

刈谷市議会議員 伊藤よしえ による刈谷の未来づくり提案誌

ORANGE PRESS

オレンジプレス Vol.6
2024年12月議会号

2024年を振り返る

常任委員会報告

高齢者配食サービスの充実に向けて

令和6年12月議会 一般質問

部活動の地域移行、意外なメリットも！？

図書館をもっと大好きな場所に Vol.2

部活動の地域移行 意外なメリットも！？

私たち、いろんな経験がしたい！

衝撃を受けました。部活動についての一般質問をする数日前に受けた研修で、豊橋市で実施した部活動に関する調査について、研究代表を務めた名古屋大学の内田良教授が指摘してくださったことに対してです。休日の部活動が地域移行した際に参加したい活動について、帰宅部を含む現役中学生の四割は、地域クラブに参加するのであれば従来の中学校部活動にはない活動に参加したいと考えており、また、現在部活動に参加している生徒の中で、土日は休みたいと考えている生徒も四割いるとの結果が出ていました。小中学生時代、正月以外は休むことなく部活に取り組み、平日も休日も学校で入った部活をやるのが当たり前だった私にとって、休日だけ違う活動に従事するという、新たなチャレンジの選択肢があるということに、これまであまり意識が向いていなかったのだと気づかされました。

今回は、研修での気づきを踏まえつつ、令和六年十月から中学校部活動の休日活動が月二回以下となったことによる、教員や生徒、保護者への影響や、部活動顧問に従事する教員の働き方と処遇、部活動地域移行の今後について問いました。

新たな休日の過ごし方

休日の部活動が月二回以下になったことに対する影響を問うたところ、もっと練習したいという子どもたちのために、自主的に休日活動の場を設けている保護者もおられることが分かりました。一方で、子どもの休日の過ごし方や家族での過ごし方にポジティブな変化があった、教員が生活のゆとりを感じられるようになったという声もあることが分かりました。ネガポジ両面の影響があり、今後の部活動の在り方に反映していかねばならないと考えます。

顧問はつらいよ

部活動顧問に従事する教員の皆さんの現状はどのようなのでしょうか。教員には調整手当というものが支給されており、平日の部活動については、たとえ定時を超えたとしても企業の残

業手当にあたるものは支給されません。休日部活動には、特殊業務手当が支給されます。愛知県下統一で、三時間以上の活動を行った場合に二千七百円とのこと。一時間あたり九百円以下ということになりますので、顧問の役割や責任に鑑みて妥当かは疑問が残ります。

また、部活動顧問を担うことに対し、技術面での不安などの負担感を感じている教員もいます。これに対して刈谷市は積極的なサポートをしており、複数名で各部の顧問を担当するように配置し、負担を分散しています。また、「専門性が高い指導者から指導を受けることで、子どもたちのスポーツ・文化環境を向上させる」ことを目的に、中学校に外部指導者を配置し、専門性の高い競技である武道をはじめ、様々な種目で外部指導者の方々に技術的な指導をしていただいており、結果として技術指導に不安を抱える顧問の支えとなっているとのこと。現在外部指導者登録者数は六十四名、来年度以降さらに増員していく予定です。

刈谷らしい部活動の仕組みを模索する

さて、刈谷市の部活動は今後どうなっていくのでしょうか。小学校部活動は令和八年度末までに終了することがすでに決まっていますが、特に音楽系の部活動などの受け皿が不足しているため、確保に向けた引き続きの取り組みを要望しました。中学校部活動は、外部指導者の充実を図り、当面は中学校部活動の形を維持しながら、地域連携を進めていくとの答弁でした。全国を見てみると、平日の部活動も地域移行した自治体もあれば、ウチは地域移行しません、顧問は希望制で募り、教員にも外部指導者にも報酬を払います、と表明した自治体もあります。子どもの数が減っていないこと、外部指導者活用の特長が、刈谷が高いことなど刈谷の特色を踏まえつつ、休日部活動の地域移行によるメリットも活かし、持続可能な中学校部活動の仕組みの整備により、将来に亘って子どもたちが質の高い教育を受け続けられるよう、今後も取り組んで参ります。

図書館をもっと 大好きな場所に Vol.2

刈谷市民は読書好き？

最近の本を読む人が減ったと言われます。実際に文化庁が実施した「国語に関する世論調査」によると、一か月に一冊も本を読まない人が六割を超え、五年前よりも十五ポイント増加しており、読書離れは急速に進んでいるということです。本と言えば図書館の果たす役割は大きいですね。図書館は、子どもの頃から様々な分野の学問に触れたり、好奇心を高めることのできる場所であり、幅広い年齢の方の生涯学習の聖地であり、自分が得意な分野などについて力を発揮し、誰かの役に立てるようなコミュニティにもなりえる絶好の施設です。しかも誰でも無料で楽しめる。家庭の経済的事情などにより、子どもの経験格差が生まれている社会において、救世主とも言えます。

刈谷市が電子図書館を導入して一年が経過しましたので、その振り返りも兼ねて、図書館の魅力向上について取り上げることにしました。

刈谷市内の図書館利用状況は、利用者数約二十八万人、貸出冊数は約百三十万冊であり、十年前と比較すると一割以上増加しています。電子書籍は、延べ利用者約二万人、約三万五千冊の貸出があり、出だし好調といったところです。

学習スペース不足問題

一方で課題もあります。中央図書館は通路が狭いため、本を入れて移動できる貸出カートの導入できませんし、ICタグ貸出も導入していないため、貸出窓口が混雑する日もあります。

この二点については、昨年九月の議会でも望んでいます。残念ながら実現はまだ先になりそうです。今回はさらに、学習スペース不足に対する対策もお願いをしました。テスト期間は図書館が朝から満席で、ショッピングセンターのフードコートなどで勉強する学生の姿をよく見かけののです。この課題も解決のハードルは高そうですが、既存施設の柔軟な活用・転用、今年の五月に閉鎖した城町図書館の跡地の活用を提案しましたので、今後もフォローをして参りたいと思います。

リニョーアルにあたって

図書館のような公共施設は、耐用年数に応じて改修や建て替えの計画を策定し、運営されています。中央図書館は現在築三十四年。近い将来、大規模改修等が必要になります。昨今、この自治体でも、ハコモノへの税金投入に対する市民の皆さんの関心が高まっていると感じます。私自身は、本を読むだけでなく、様々な生涯学習や市民活動、みんなの「居場所」などの必要性の観点で、図書館をより魅力的な場所へとリニョーアルすることに前向きな立場ですが、様々なご意見があると思います。

大規模改修に向けて、市民の皆様の声を聞くことや、費用をいくらかけ、どのような目的を持たせ、どのような効果を生み出す施設とするのか、早期から丁寧な進め方をさせていただくことを要望し、一般質問を終えました。

常任委員会報告

福祉産業委員会にて、高齢者配食サービス事業に関する質問と要望を行いました。

刈谷市で行っている高齢者配食サービスは、利用回数は週三日までという制限があります。利用料金は一般食が三百円/食で、他市と比較しても優位なのですが、利用回数は週五日以上としている自治体が多く、過去から利用可能回数を増やして欲しいといった声が上がっていました。そうした声を踏まえ、高齢者の食の自立や健康増進のために、配食サービスの回数増を要望しました。

今後高齢者人口は増加をしていくため、高齢者福祉施策全般に関する事業費の更なる増加が見込まれます。そうした中でも、高齢者福祉事業を持続的に運営できるよう、総合的な視点で配食サービスの制度見直しを行って欲しいということもお伝えしました。

三月議会では来年度予算が審議されますので、追ってご報告いたします。



上／刈谷駅南口みなくる広場のイルミネーション。刈谷に引っ越してきたばかりの知人親子も「キレイだね～」と大はしゃぎで喜んでくれました。

右／デンソー労働組合の仲間とともに、名古屋工業大学の北川教授を訪問。被災地などで活躍しているインスタントハウスについて学ばせていただきました。刈谷市でも導入されるよう、働きかけます。



右上／ステーションAiがオープン。刈谷市もパートナー拠点になりました。
 左上／今年は選挙イヤー。政治情勢の転換点を迎えています。手取り増や自動車関係諸税の見直し等の政策実現に向け、各級議員で連携します。
 左／ミササガパークがリニューアルオープンしたのも24年の出来事。春にはバラが咲き誇る、刈谷市自慢の公園です。

2024年
オレンジの女

おもひでのユートピア

[おしらせ]
 ORANGE PRESS は、年間4回発行します。
 日々の活動はSNSでも発信しています。
 是非フォローをお願いします！DMにてご相談も賜ります。

Facebook



X



[連絡先] 刈谷市昭和町1-1 デンソー労働組合 TEL 0566-87-6731